資料2－2

水際線まちづくりコンセプトプラン（原案）



臨港パークから山下公園、そして山下ふ頭へとつながる水際線には、都市と海の近さや、美しい港の風景、豊かな緑、日本新三大夜景都市に選ばれた夜間景観、世界級の音楽アリーナ、観光·商業施設など、多彩で横浜らしい魅力が集積しています。

こうした水際線の魅力を更に磨き上げるとともに、美しい海辺の景色を楽しみながら快適に移動できる歩行者空間や、象徴的なグリーン空間などの居心地の良い滞在空間、来街者がつい立ち寄りたくなる新たな魅力スポットなどを創出することで、国内外の多くの方々に新たな水際線の魅力を体感いただけるよう、まちづくりに取り組んでいきます。

その実現に向け、水際線の目指す姿やまちづくりの進め方、具体的な整備の方向性等をまとめたコンセプトプランを策定し、市民や事業者の皆様とともに『世界に誇れる水際線』をつくりあげていきます。

目次

水際線とは …… 5

水際線の魅力 …… 7

水際線まちづくりの目指す姿 …… 9

まちづくりの進め方 …… 10

まちづくりのコンセプト …… 12

エリア全体でのまちづくりの視点 …… 13

整備の方向性 …… 14

―水際線の 5 つのエリア

1　臨港パークエリア …… 15
2　ハンマーヘッド周辺エリア …… 23
3　赤レンガエリア …… 27
4　象の鼻エリア …… 33
5　山下公園エリア …… 39

― 5 つのエリアのつながりの強化 …… 45

1　照明
2　水際線ルートサイン

―水際線とまちのつながりの強化 …… 51

1　横浜駅～臨港パーク
2　みなとみらい駅～臨港パーク
3　結節点サイン・矢羽根サイン







水際線とは



このプランでは、臨港パークから山下公園に至る約5kmの水際線と横浜駅周辺やみなとみらい、関内・関外などの各地区、
水際線と主要な鉄道駅等をつなぐ軸線【キング軸、クイーン軸、にぎわいと緑の軸線（日本大通り、みなと大通り、大通り公園）など】を対象としています。



画像: ©2025 Google, 地図データ ©2025

水際線の魅力

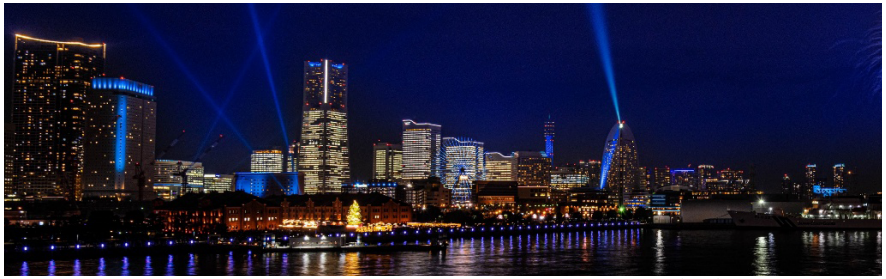


海・花・緑

まちと海が近く、また、公園や緑地がプロムナードで結ばれており、水際線を歩けば、都市部でありながら豊かな花や緑に親しむことができます。

景観

目の前に広がる海や豊かな緑と街並みがつくり出す美しい景色、日本新三大夜景都市に選ばれた夜景など、横浜ならではの水際線の景観に出会えます。



photo：（一社）横浜みなとみらい21



歴史

開港以来、日本の国際貿易の中心地として発展してきた横浜には、今もその歴史を感じさせる建物や街並みが残ります。そうした歴史や景観を大切に、価値ある建物が今に生かされています。

観光

横浜には、年間3,700万人以上の人が観光・MICEに訪れるほか、国内外から多くのクルーズ船が寄港し、その様子を間近に見ることができます。格調高いクラシックホテルからグローバルブランドホテル、ファミリーでも泊まりやすいホテルなど、ニーズに応じて選べる多様なホテルが集積しています。



エンターテインメント

音楽のまちとして、まちなかでの都市型フェスの開催や、大規模音楽施設の集積が進んでいます。エンタメ施設や企業ミュージアムも集まり、国内外から多くの人が訪れます。



提供：株式会社ケン・コーポレーション



ビジネス・イノベーション

みなとみらいエリアでは2,000社を超える企業のオフィスがあり、企業間のオープンイノベーションやスタートアップを支援する拠点も立地するなど、新たなビジネスやイノベーションを生み出す環境が整っています。

スポーツ・ウェルビーイング

水際線を舞台に開催される世界トライアスロン横浜大会や横浜マラソンなどの大規模スポーツイベントが「する」「みる」「ささえる」「ふれる」それぞれの人によって盛り上げられています。また、ランニングやヨガなど生活の豊かさにつながるアクティビティを楽しめる場所が多くあります。



©Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media



交通・アクセス

鉄道やバスなど、さまざまな交通アクセスがあり、東京や羽田・成田空港からは乗り換えなしで着けます。
また、水上モビリティも充実しており、移動しながら非日常感を楽しむことができます。

水際線まちづくりの目指す姿

多くの人や企業を惹きつける都心臨海部に発展させていくために、水際線のまちづくりで目指す姿を「世界に誇れる水際線」とします。「出かけたくなる」、「横浜のファンになる」、「世界が注目する」という3つのまちの姿の達成により実現していきます。
【目標年度：2029 年度】

「世界に誇れる水際線」

出かけたくなる
TRIGGER

・水際線の魅力向上を行政が先導的に推進し、出かけたくなる環境づくりを進めていきます。
・訪れた人々が横浜でしかできない体験を楽しみ、誰かに伝えたくなるような水際線にしていきます。



Photo：（一社）横浜みなとみらい21

横浜のファンになる
ORIGINALITY & HOSPITALITY

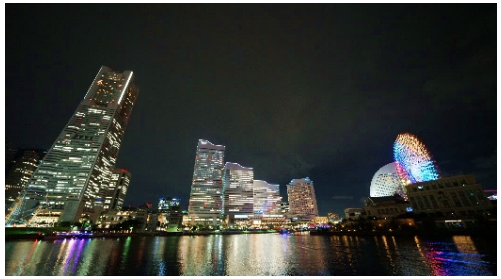
・独自の魅力を更に磨き、来街者にまた訪れたいと感じてもらえるホスピタリティあふれる水際線にしていきます。
・横浜に住みたい、横浜で働きたい・学びたいという人々を増やしていきます。



©CENTRAL MUSIC & ENTERTAINMENT FESTIVAL 2025

世界が注目する
BRANDING

・一目見て「YOKOHAMA」と分かる圧倒的な水際線の景観をブランディングし、発信していきます。
・世界を魅了し、市民や企業が誇れる水際線にしていきます。



Photo：（一社）横浜みなとみらい21

まちづくりの進め方

目指す姿の実現に向けて、「点の磨き上げ・線の創出・面の展開」の考え方に基づき、民間企業やまちづくり団体等と連携しながら、まちづくりを進めていきます。

1 「点」の磨き上げ

・まちと海の近さや港の風景・夜景、観光スポット、商業・エンタメ施設など、多彩で横浜らしい魅力資源のポテンシャルを最大限に発揮できるようアップグレードします。
・新たな魅力・にぎわい施設を整備するなど、横浜ならではの魅力を創出します。



<左下>photo：大野隆介

2 「線」の創出

・磨き上げた魅力資源を結び付けるため、連続した歩行者空間の創出や移動そのものが楽しめる仕掛けづくりにより、水際線エリア全体の魅力を向上させます。



3 「面」の展開

・公共空間の積極的な活用などにより、水際線のにぎわいと主要駅周辺の拠点整備等によるにぎわいを連動させ、水際線からまちへ、まちから水際線への更なる人の流れを生み出し、都心臨海部全体を活性化します。



まちづくりの進め方

まちづくりによる成果指標

来街者への聞き取り調査や人流データ分析などにより、水際線のまちづくりによる成果を把握していきます。成果指標の達成により、来街者数の増加や滞在時間の延長を図り、都心臨海部全体のにぎわいの創出や消費の拡大にもつなげていきます。

目指す姿

「世界に誇れる水際線」

水際線の来街者数

国内外から多くの来街者を呼び込み、横浜のファン・リピーターになってもらうことで都心臨海部の活性化を図ります。

現状値：975 万人 / 年
目標値：1,100 万人 / 年（2029 年度）

計測方法：人流分析データサービスを使用
水際線エリアに1時間以上滞在した人数
※居住・勤務者を除く

水際線における2エリア以上の立ち寄り率

2か所以上のエリアを楽しんでもらい、回遊促進・滞在時間の延長を図ります。

現状値：51%
目標値：80%以上（2029 年度）

計測方法：以下6か所の立ち寄りを聞き取り調査
臨港パーク、ハンマーヘッド周辺、赤レンガパーク、象の鼻パーク、大さん橋、山下公園

水際線のまちづくり

まちづくりのコンセプト

1 いつきても、だれときても



・家族や友達、パートナーなどと過ごせる、お気に入りの海辺の居場所をつくります。
・特別感のある海辺の立地を活かした魅力的なコンテンツにより、そこが目的地となる水際線を目指します。

2 わくわくに導かれて



・その先に何が待っているのか期待感が高まり、つい歩みを進めたくなる楽しい水際線をつくります。
・散歩、ジョギング、モビリティなど、海風を感じながら、移動そのものが楽しくなる仕掛けをつくります。

3 一日のはじまりから、おわりまで



・水際線ならではの体験の充実を図り、朝から水際線の魅力を堪能できる機会を創出していきます。
・水際線を彩る光の演出やナイトガーデンなど、コンテンツの充実を図り、夜まで楽しみ尽くせる水際線をつくります。

4 今ここでしか味わえない体験を



・水際線をフィールドに、躍動感・臨場感あふれるイベントやライブ、スポーツなどが繰り広げられている日常をつくります。
・歩いているだけで、そこにいるだけで、ここでしか見られない景色や瞬間に出会える水際線をつくります。

5 そして、水際線からまちなかへ



・連続するグリーン空間やイルミネーション等により、水際線からまちへと人々を誘う仕掛けづくりをしていきます。
・まちに訪れた人々が、飲食やショッピング等を楽しみ、横浜のまちを満喫できる機会を創出していきます。

エリア全体でのまちづくりの視点

水際線のまちづくりを進めるにあたり、エリア全体で共通して取り組んでいく視点をまとめました。
これらの視点を踏まえながら、まちづくりを進めていきます。

1 環境への配慮や気候変動への対応

・水際線上に彩りや豊かさを生み出す新たな緑を創出し、海辺空間と一体となったまちづくりを進めます。
・再生材の活用や LED 照明の設置などにより、環境負荷の軽減に努めます。
・木陰の創出や遮熱性の舗装材の活用による酷暑対策など、昨今の気候変動に対応したまちづくりを進めます。





2 人にやさしい快適な環境づくり

・歩行領域モビリティ（※）や、シェアサイクルなど多彩なモビリティにより、誰もが水際線を楽しみながら安心して移動できる環境づくりを進めます。
・案内サインの多言語化や歩きやすい歩行者空間の整備など、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めます。
・誰もが気軽に飲食や休憩ができる施設の整備など、快適に滞在できる環境を整えます。





3 海辺を活用したにぎわいづくり

・きれいな海づくりを推進するとともに、子どもたちが水に触れ合う体験や、海の生物について学べる機会を創出していきます。
・海辺空間を活用したイベントの実施や、水上アクティビティ・飲食の充実などによるにぎわいづくりを進めます。
・水上交通で各エリアを結び、回遊性を高める取組を推進するとともに、船上から見る朝日や夜景、花火など、朝や夜のコンテンツの充実を図ります。





※歩行領域モビリティとは：歩行者空間での利用を前提とした最高速度が時速 6km/h 程度の小型電動モビリティ
（免許不要、道路交通法上、電動車いす等と同じ扱い）

整備の方向性

水際線の５つのエリア

水際線の5つのエリアで、それぞれの特性を活かしながら、魅力を高めるまちづくりを進めていきます。

5
山下公園
エリア

4
象の鼻
エリア

3
赤レンガ
エリア

2
ハンマーヘッド周辺
エリア

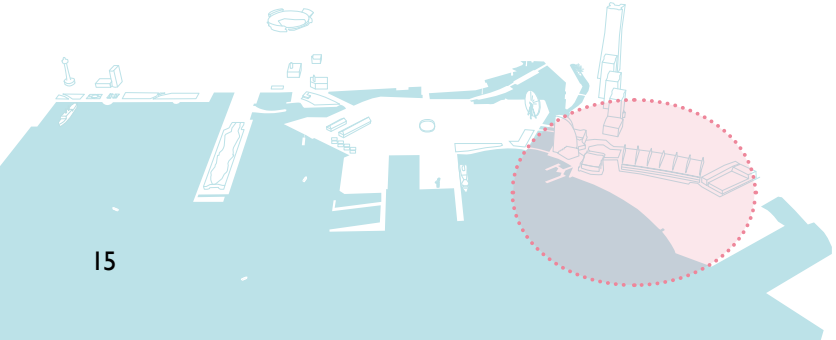
1
臨港パーク
エリア



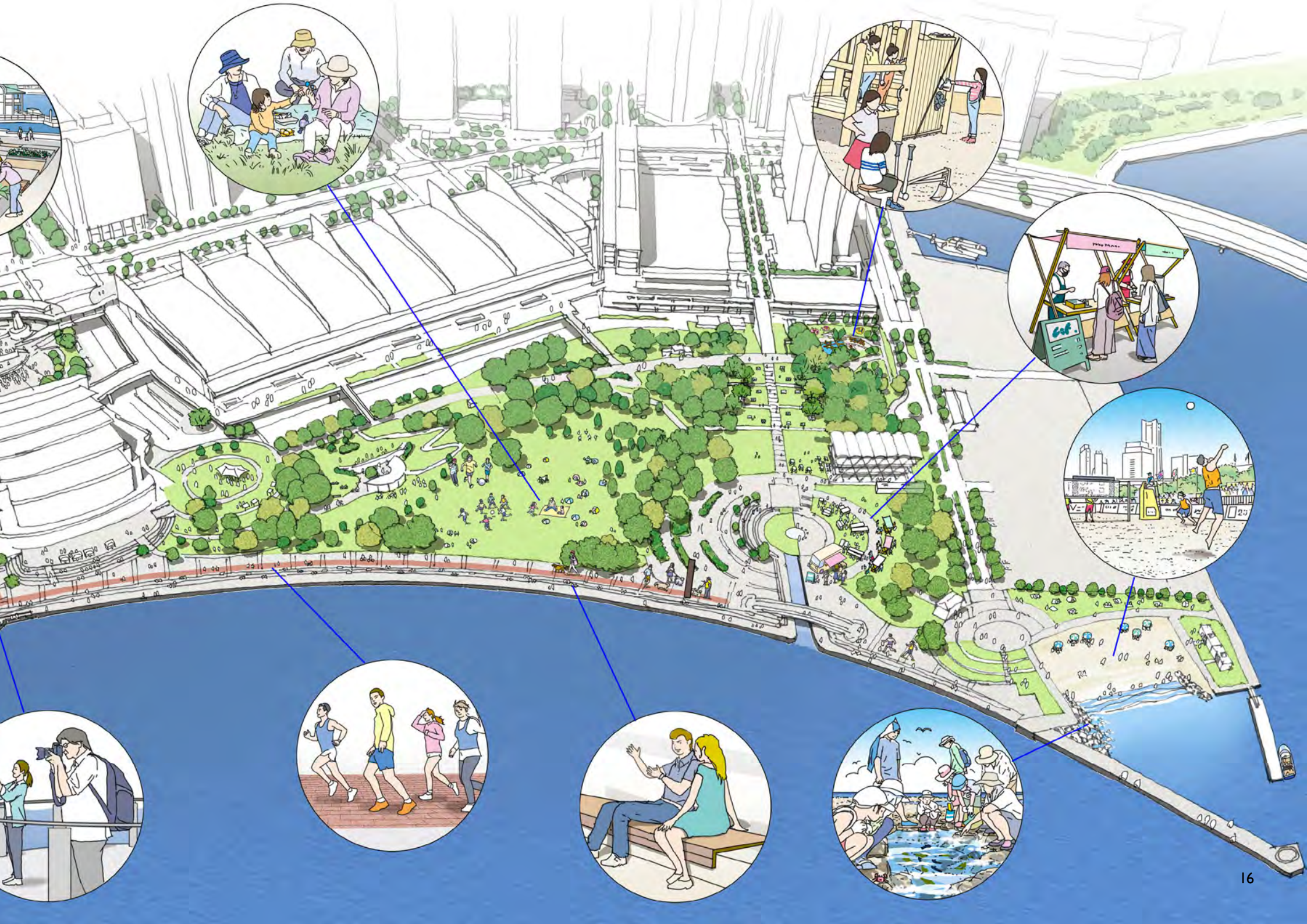
臨港パークエリア

臨港パークエリアは、水際線随一の広さを誇る開放感あふれる緑豊かな場所です。
ピクニックやジョギング、犬の散歩など、子どもからシニアまで、多くの市民に親しまれています。
訪れる人々が思い思いのスタイルで楽しめる緑地として、居心地の良さを高めていくとともに、
エリア内にある横浜ティンバーワーフやぷかりさん橋などの滞在施設、広々とした芝生広場、
美しい海辺の眺望を活かした花火大会やナイトマーケットといった多彩なイベントなどにより、
市民をはじめ、観光客や隣接する MICE 施設に訪れた人も惹きつける場所としての価値も
高めていきます。
日常の憩いと特別な体験が共存するエリアへと進化させていきます。

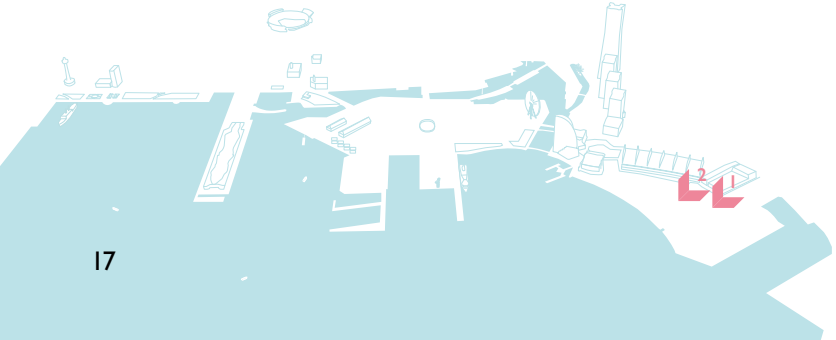
※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。











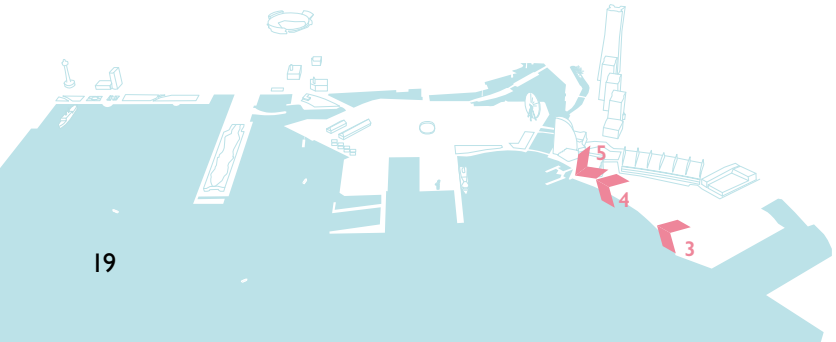
view 1 : 子どもから大人まで憩える空間の創出



view 2 : 水際線へ誘う動線の強化



view 3 : 滞在場所と歩行者動線の整備





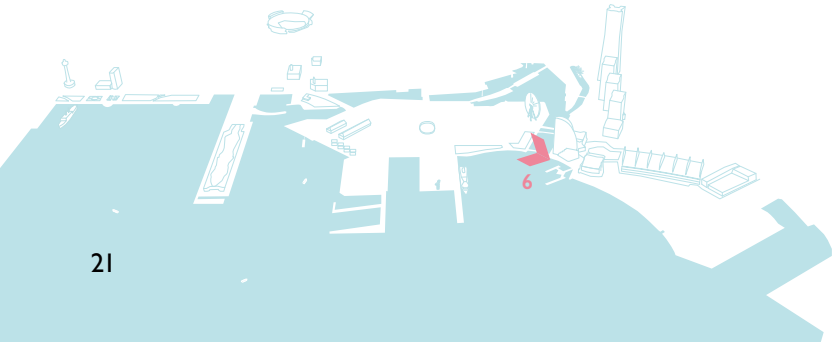
view 4 : 先へと誘う空間づくり



view 5 : ビュースポットの設置



view 6 : エリアのつながりの強化



新たな魅力・集客施設

臨港パークに訪れた来街者が、飲食やレクリエーションなど、多様な過ごし方ができる新たな魅力集客施設を整備するとともに、パシフィコ横浜や臨港パークに訪れた方々が、MICEやイベントの前後に周辺施設を巡り、飲食などを楽しめるよう、施設と連携した取組を推進していきます。



1 横浜ティンバーワーフ

水際線の景色を楽しめるカフェやレクリエーション施設として、2025年10月にオープン。夜空の下で映画を楽しんだり、季節ごとのイベントでにぎわいを創出します。


外観


イメージ

2 臨港パーク 来街者施設

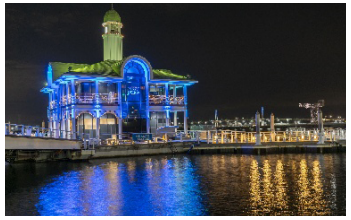
豊かな自然に包まれながら、心安らぐひとときを過ごせるカフェや、アウトドアアクティビティを楽しめる場を創出します。


外観


イメージ

3 ぷかりさん橋（みなとみらいさん橋及び同付属旅客施設）

音楽とともに上質な時間を過ごせるバー、海風を感じながら過ごせるテラス席の設置など、日常から少し離れたラグジュアリーな体験ができる場を創出します。


外観

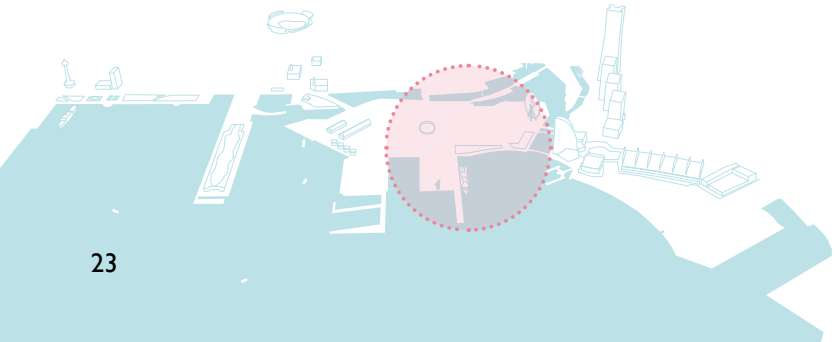

イメージ

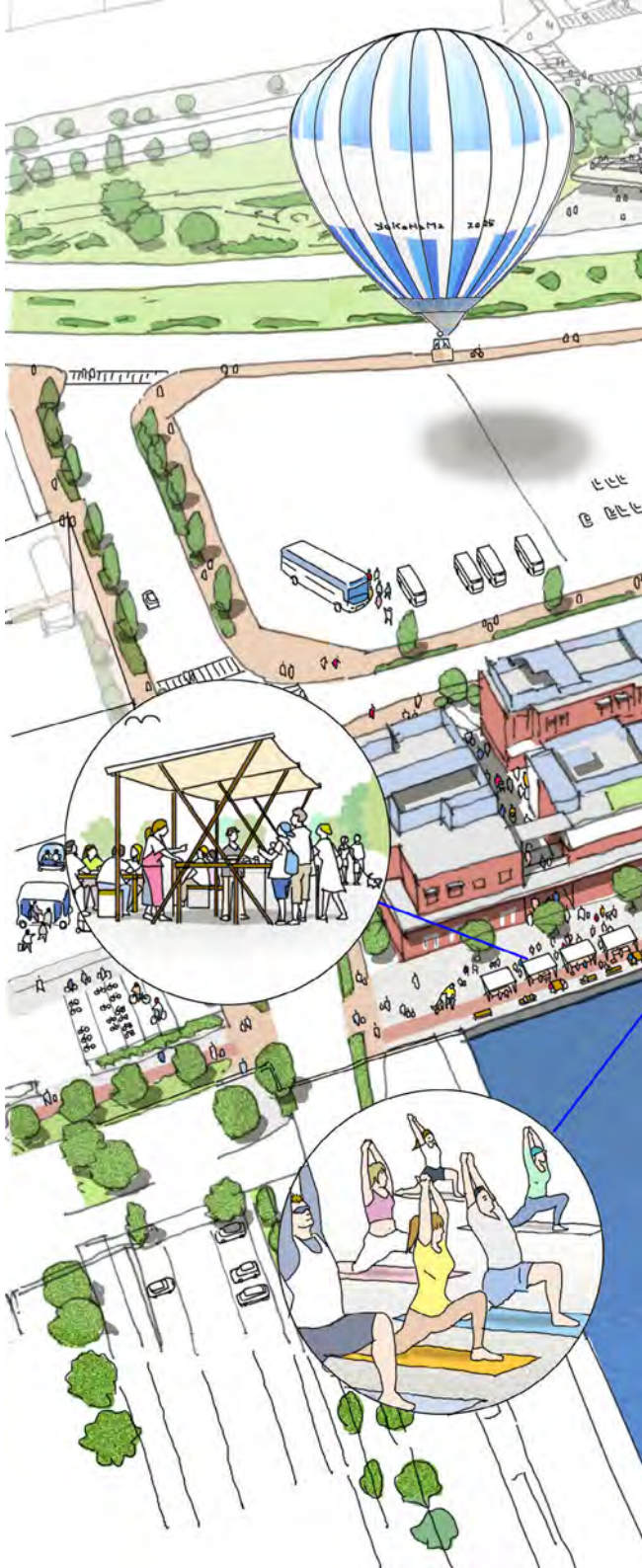
2

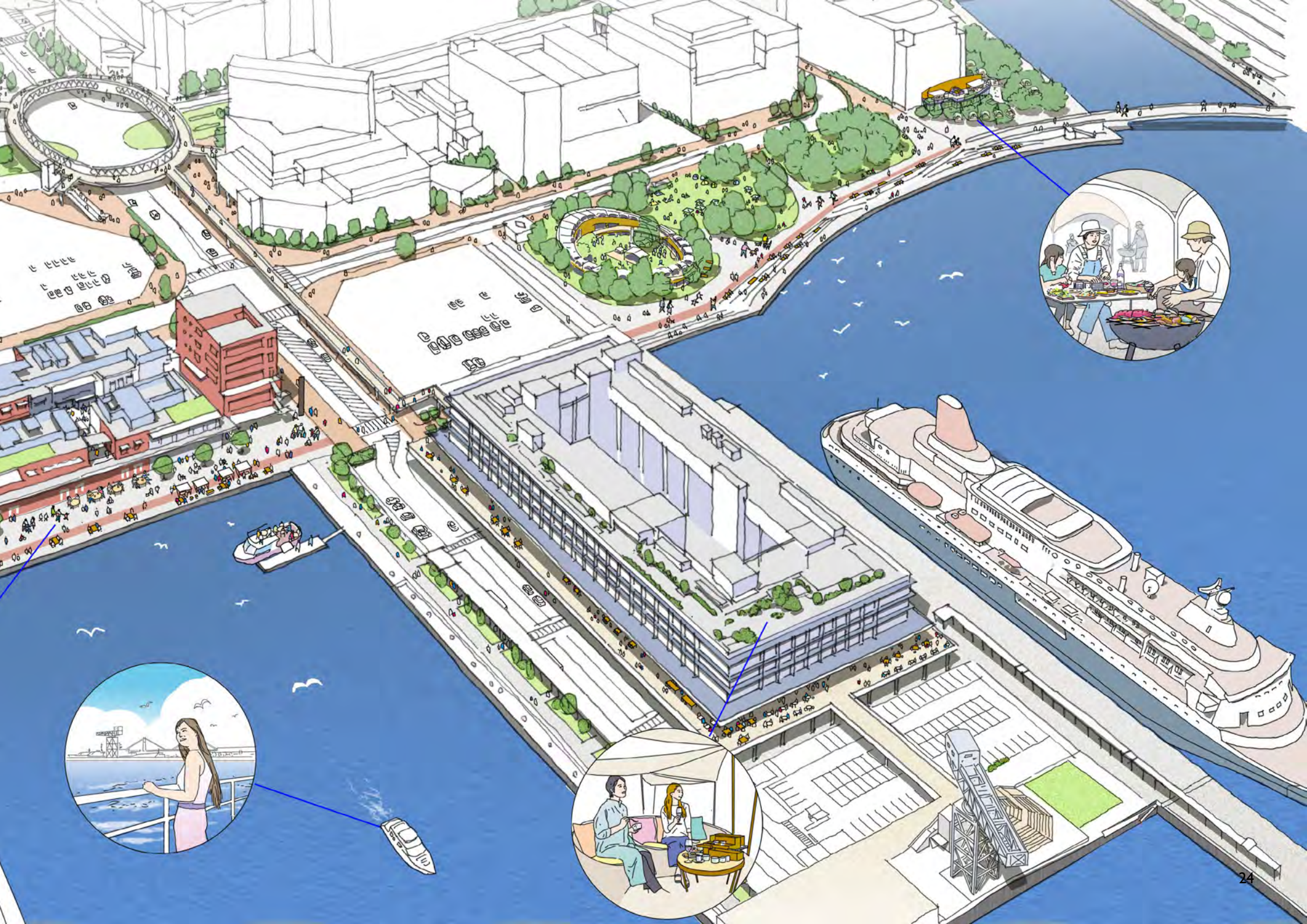
ハンマーヘッド周辺エリア

ハンマーヘッド周辺エリアは、海を身近に感じられる場所に、商業施設や客船ターミナル、ホテルなどの多様な施設が立地する場所です。
新港ふ頭客船ターミナルに停泊するクルーズ船などの横浜らしい景色を見ながらくつろいだり、海と緑に囲まれてグランピングを楽しんだりできる場を創出するとともに、海辺での朝食やモーニングクルーズなど、朝の時間帯を満喫できるコンテンツの充実、オープンテラスやマルシェなどでにぎわう空間の創出により、水際線ならではの多様な体験ができるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。







【カップヌードルミュージアムパーク周辺】



view 1 : 連続性のある歩行者空間の創出



グランピング施設

緑や桜と海の眺望を活かした新たな滞在空間とにぎわい施設の整備により、集客機能を強化するとともに、周辺のプロムナードを歩いている人をはじめ、水際線を訪れた方々に立ち寄ってもらえる施設に拡張していきます。





【横浜ハンマーヘッド周辺】



view 2 : 公共空間を活用したにぎわいづくり

【MARINE & WALK YOKOHAMA 周辺】



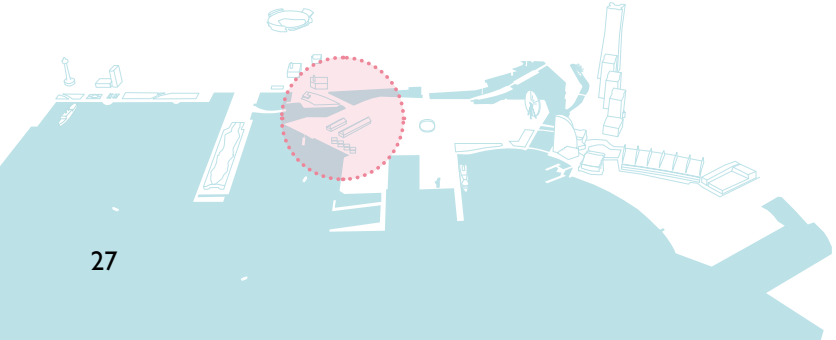
view 3 : 公共空間を活用したにぎわいづくり

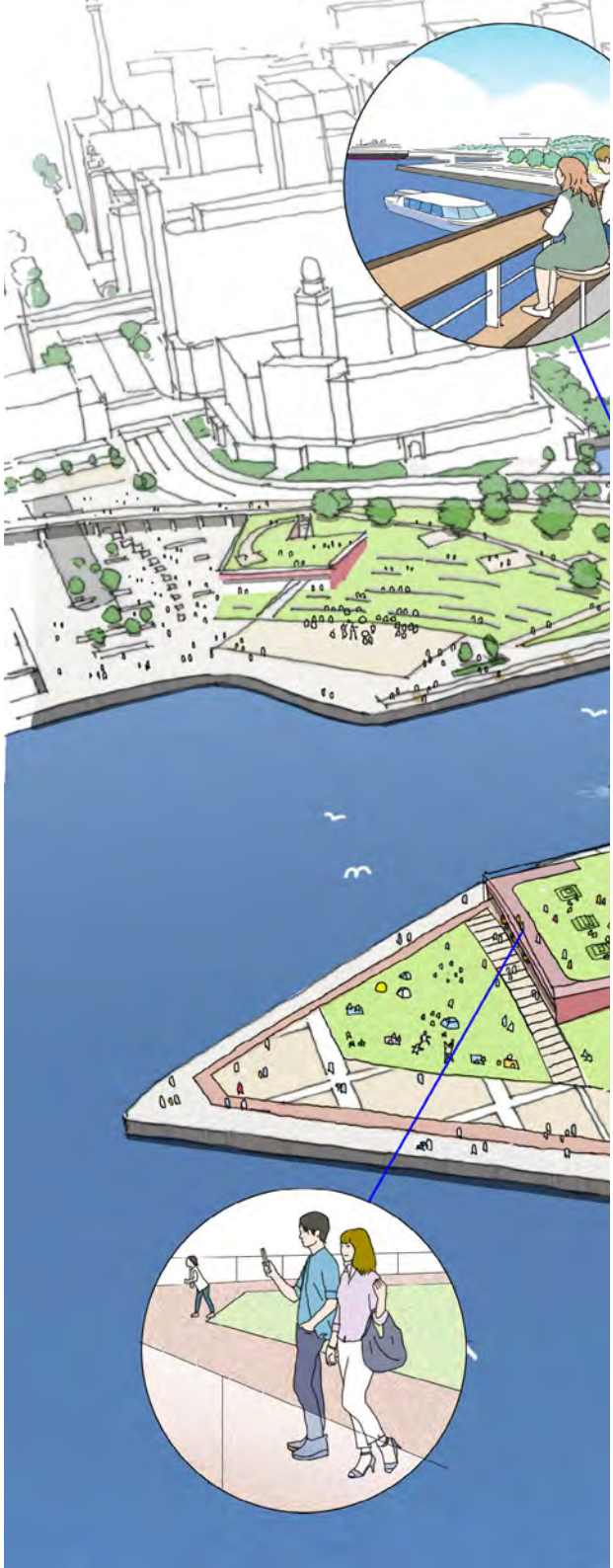
3

赤レンガエリア

赤レンガエリアは、年間を通して常に多くの人々でにぎわう、水際線随一の集客力を誇る場所です。
蒸気機関車の展示など、横浜の近代化の歴史に触れることができる新たな魅力スポットを創出していきます。
さらに、水際線の象徴となる新たなグリーン空間を創出するとともに、赤レンガから象の鼻パークへとつながる、港のパノラマを望めるペデストリアンブリッジやにぎわい施設を一体的に整備していきます。
赤レンガパークに新たに生まれる魅力的な空間によって、更に多くの人が足を運びたくなるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。

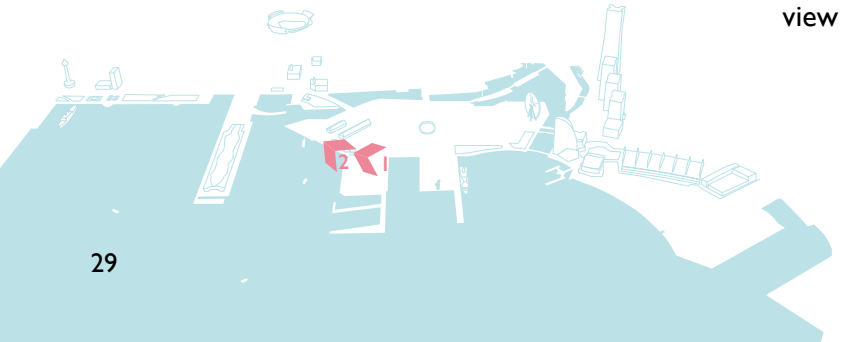








view Ⅰ：歴史に触れられる新たな魅力スポットとして再整備



魅力スポットの紹介

旧横浜港駅プラットホーム

横浜港駅は新港ふ頭と当時の横浜駅（現在のJR桜木町駅）を結ぶ「横浜臨港線」として1910年に開通し、東京駅から汽船連絡列車が乗り入れ、国際的な玄関口として重要な役割を果たしていました。
現在は赤レンガパーク内にプラットホームの屋根や構造が復元され、歴史的建造物として保存されており、ベンチに座りながら当時の雰囲気を感じることができます。





view 2 : 海の眺望を楽しめる空間の創出

新たな魅力・集客施設

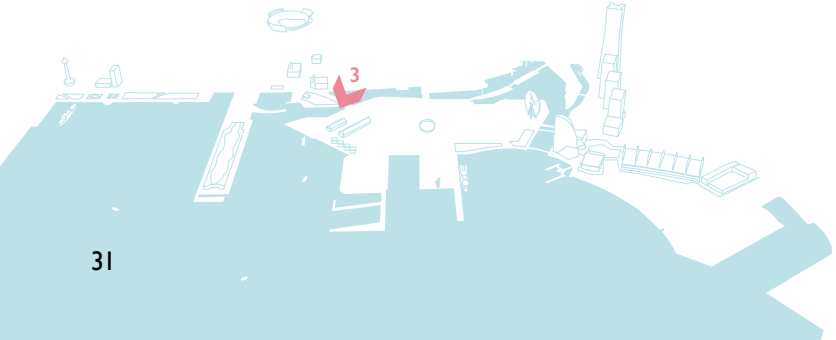
水際線の象徴となる緑とにぎわい空間の創出

市民や来街者が憩い、昼も夜も港のパノラマを望める抜群のロケーションを生かし、水際線の新たな象徴となる緑と海に包まれた空間を創出するとともに、新たなにぎわい・集客施設も一体的に再整備していきます。











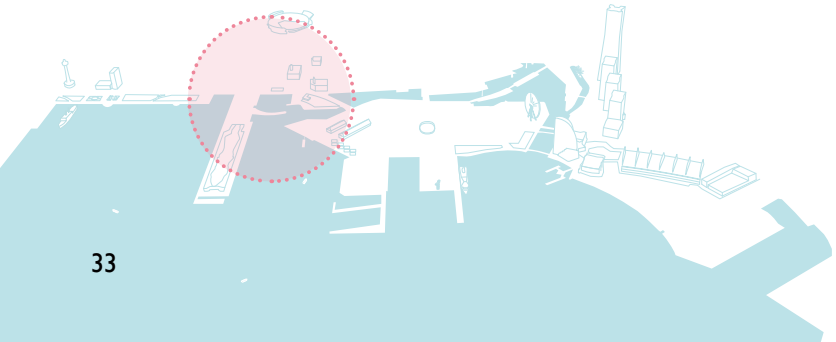
view 3 : 赤レンガパークと象の鼻パークの回遊性の向上

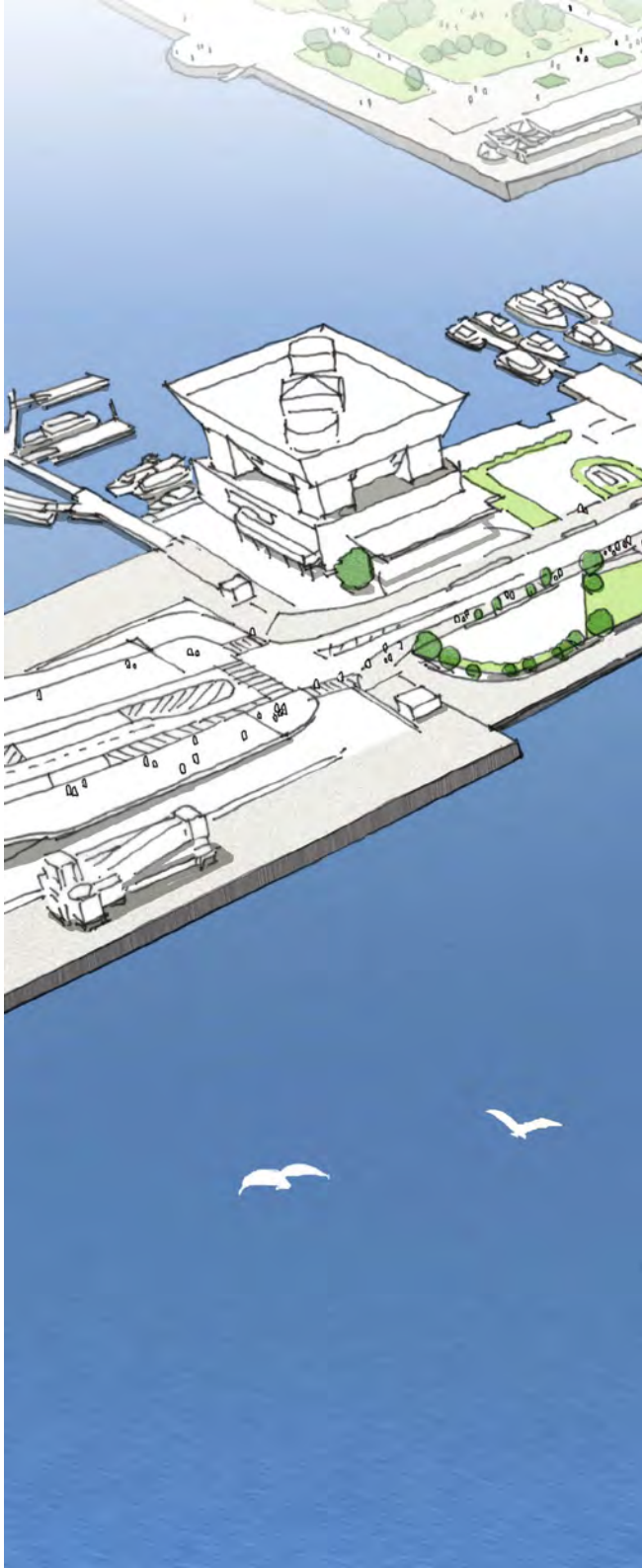
4

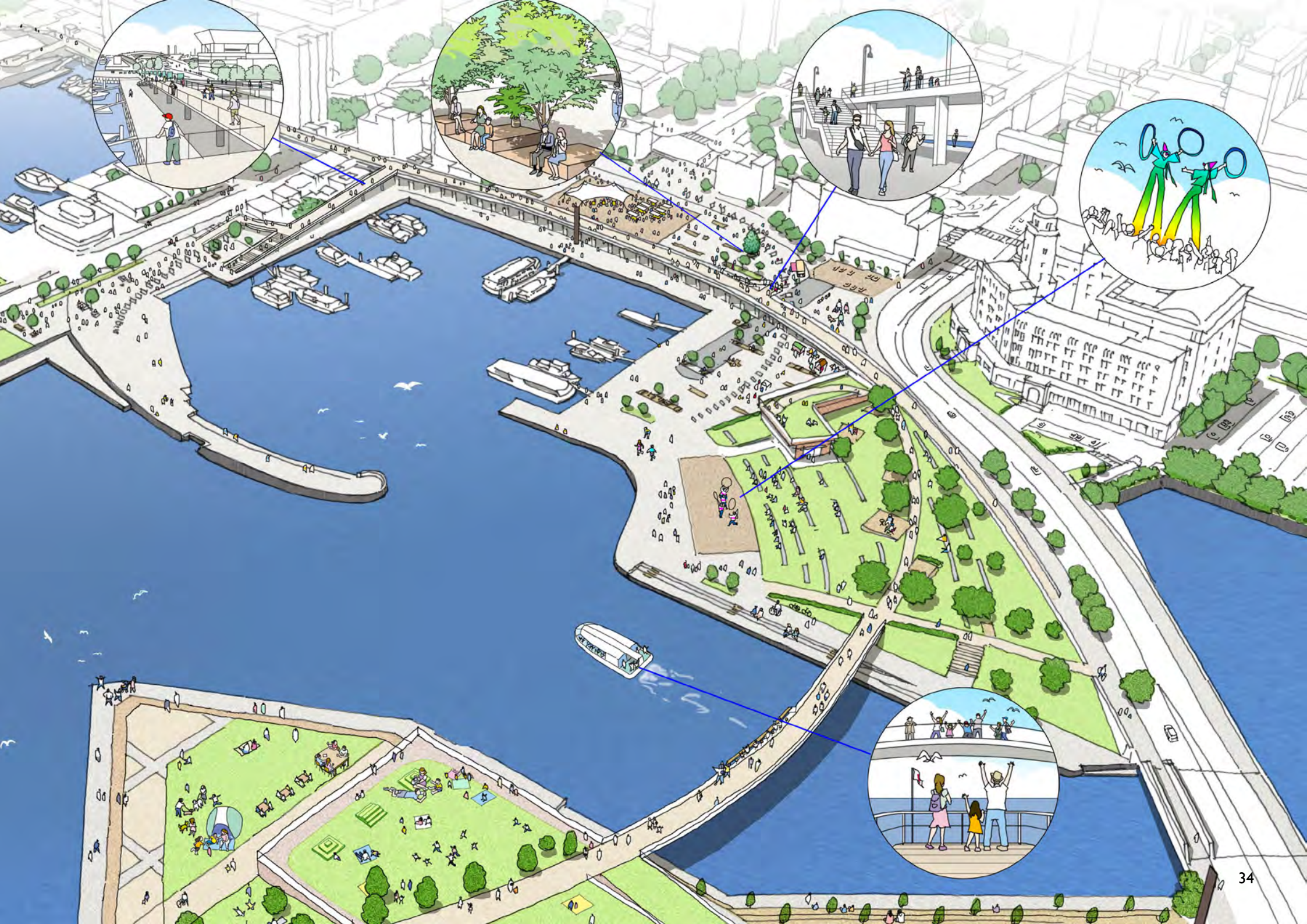
象の鼻エリア

象の鼻エリアは、日本大通りやみなと大通りなどのまちなかを結ぶ道路につながっており、まちや水際線に向かう人々が行き交う場所です。
赤レンガエリアと象の鼻エリアをつなぐペデストリアンブリッジの整備に加えて、山下臨港線プロムナードから日本大通りや大さん橋へとスムーズにアクセスできるスロープや階段を整備することで、回遊を促進していきます。
また、象の鼻テラスのリニューアルや思わず足を止めたくなるような魅力的なイベントを展開することで、更に多くの人々を惹きつけるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。

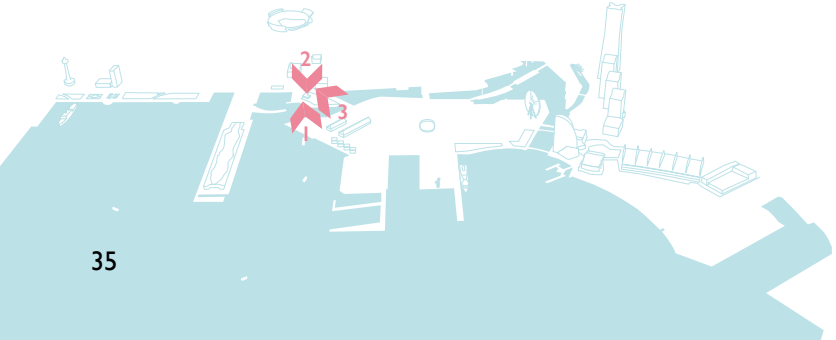








view 1 : 象の鼻テラスのリニューアルを契機としたにぎわいづくり



象の鼻テラスのリニューアル

海辺のロケーションを活かした人々が集う交流の拠点として、海風と緑が心地よいカフェや誰もが楽しめる多様なプログラムを展開し、新鮮でクリエイティブな時間と体験を提供する施設へとリニューアルしていきます。



photo : Katsuhiro Ichikawa



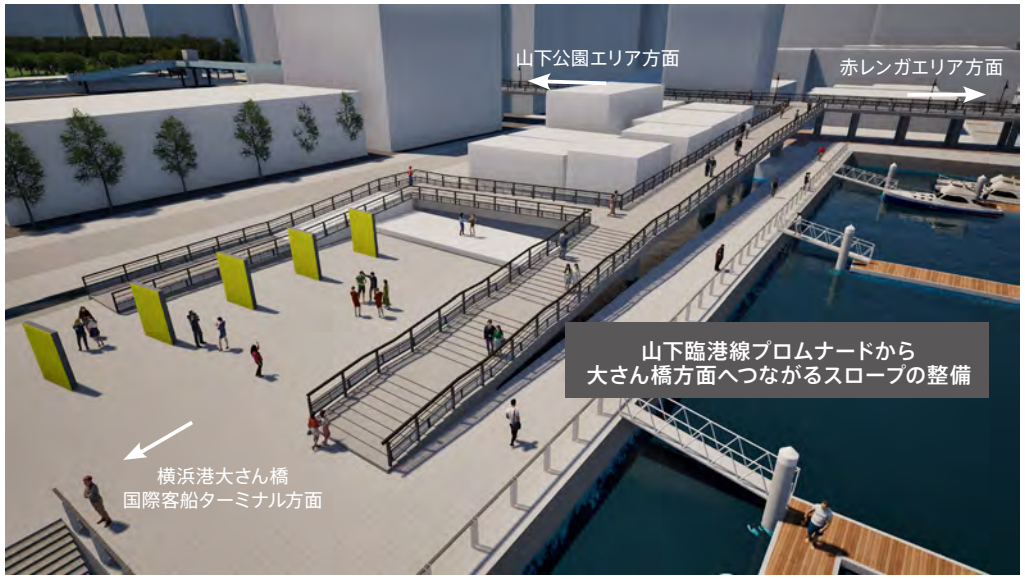
view 2 : 周辺エリアへの回遊性の向上



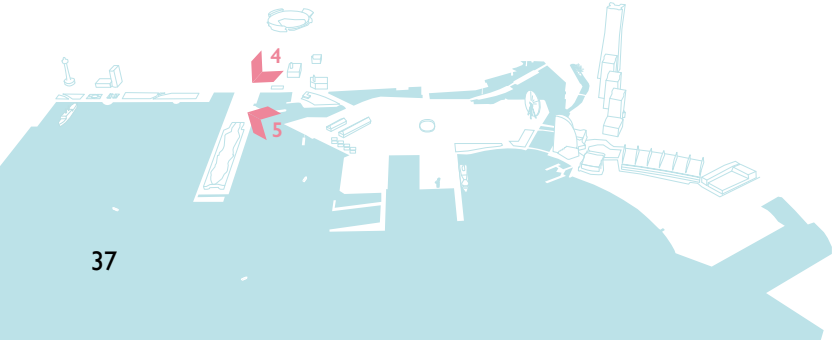
view 3 : 新たな木陰の創出による休憩スペースの整備



view 4 : 大さん橋方面へのアクセス強化



view 5 : 大さん橋方面へのアクセス強化



大さん橋（横浜港大さん橋国際客船ターミナル）

通称“大さん橋”は、開港以来130年の歴史を誇り、世界各国のクルーズ船が寄港する世界でも有数の客船ターミナルです。
また、市民が誇れる横浜港のシンボルとしても親しまれ、「ヨルノヨ」や「大さん橋マルシェ」などのイベント開催時には、多くの来訪者でにぎわいます。
波をイメージした独創的なデザインの屋上「くじらのせなか」からは、横浜ベイブリッジやみなとみらいを一望でき、夜には幻想的な光景が広がります。
クルーズ船を間近で見られる開放的な空間は、普段味わえない「非日常の体験と感動」を味わえるスポットです。







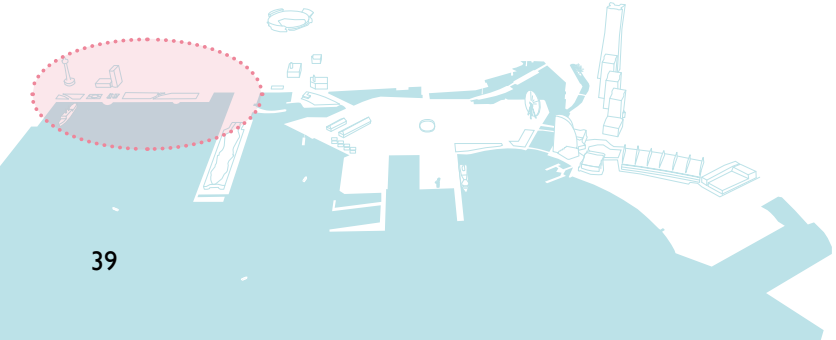
photo：(一社)夜景観光コンベンションビューロー

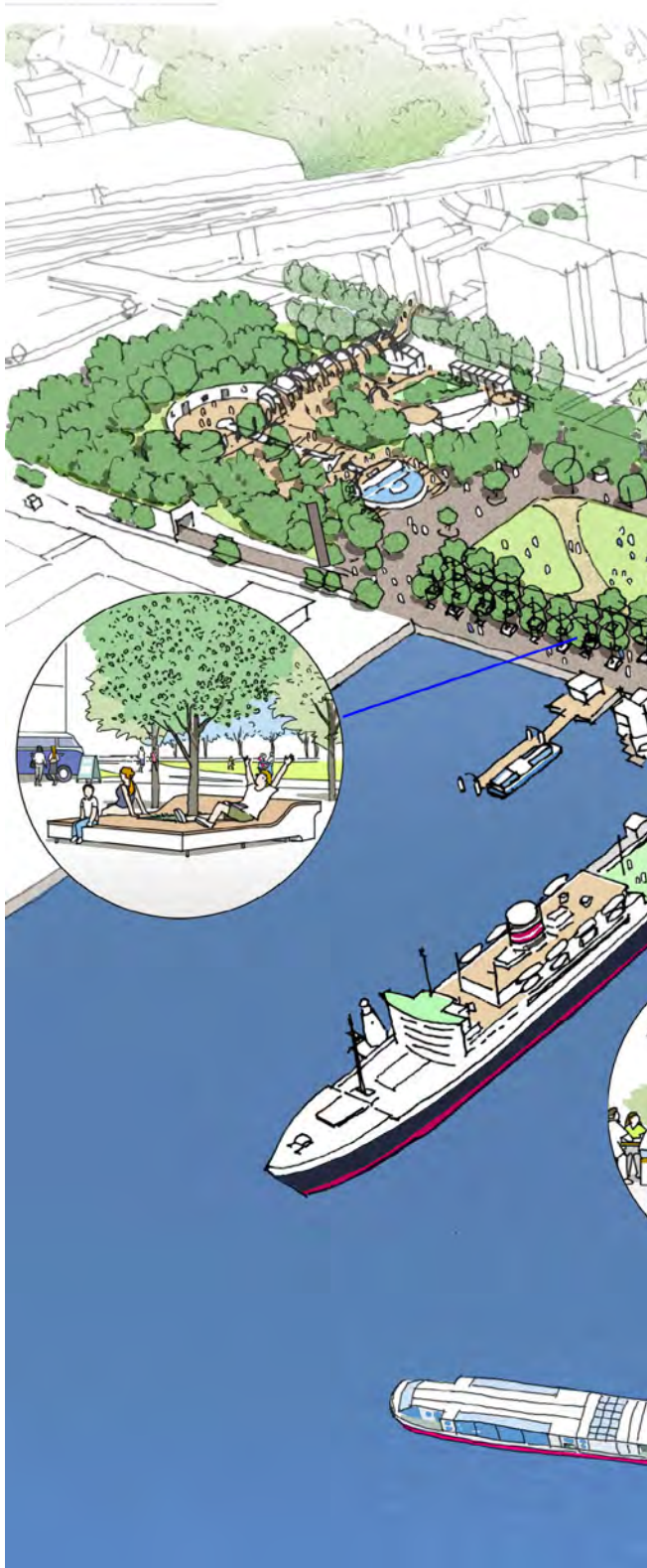
5

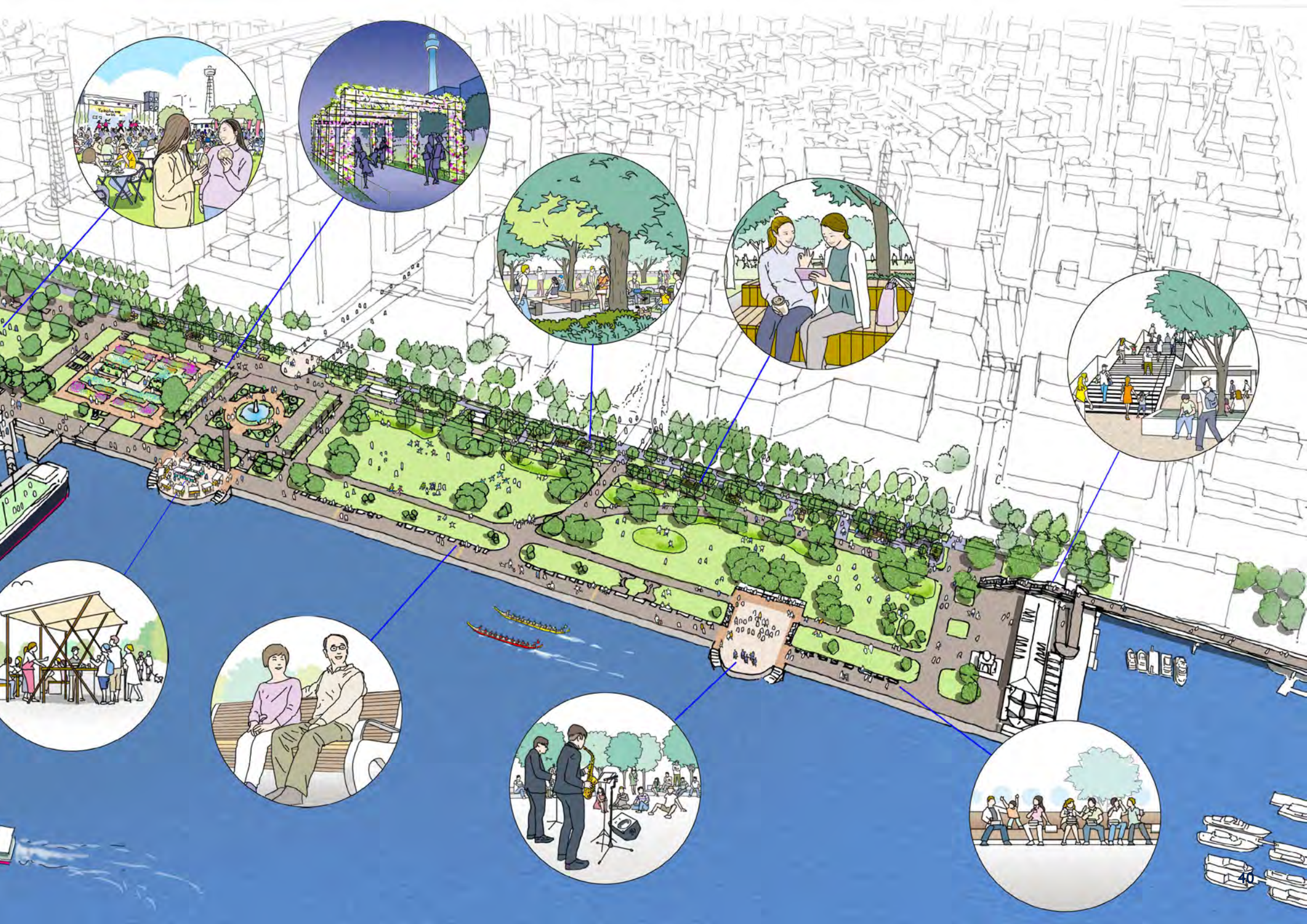
山下公園エリア

山下公園エリアは、ベイブリッジ、氷川丸を望む港の風景や、山下公園通りのイチョウ並木や歴史的な街並みなど、港町横浜を象徴する場所です。
海への眺望や四季折々の花、山下公園通りの街並み等を楽しみながら、多様な過ごし方ができる空間へとアップグレードするために、公園と道路の一体感を生み出していきます。
多彩なイベントを開催しやすくすることで、多くの来街者を呼び込み、訪れた人々が一日を通して横浜らしさを満喫できるエリアへと進化させていきます。

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。





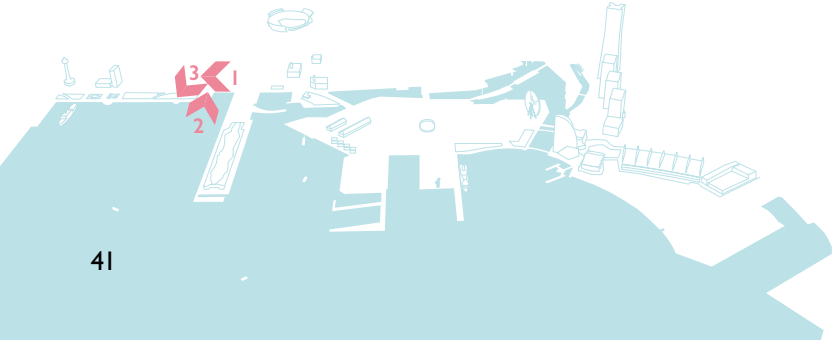




view 1 : 象の鼻・赤レンガ方面へのアクセス性の向上



view 2 : 象の鼻・赤レンガ方面へのアクセス性の向上





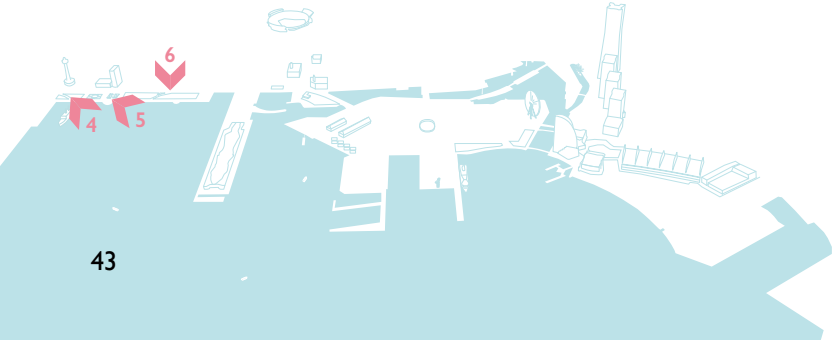
view 3 : 港町ならではの過ごし方ができる空間の創出



view 4 : イベント広場の更なる活用



view 5 : 山下公園通りの街並みも楽しめる滞在空間の創出





view6 : 山下公園と山下公園通りの一体感の創出

整備の方向性

5 つのエリアのつながりの強化

照 明

世界の人々を惹きつける夜間景観を形成していくため、「海に映る光」、「場所にあった光」、「特別な光」により、横浜ならではの夜景を更に磨き上げていきます。

海に映る光

○水面に映る光を一体的につなぎ、水際線の輪郭を際立たせます。
○海上から見たときの水際線のシルエットを浮かび上がらせ、美しい水景をつくり出します。



臨港パーク



山下公園

※整備する照明は LED 照明を採用し、二酸化炭素の排出量を抑制することで、環境負荷の軽減に努めます。
※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。

2 場所にあった光

◯エリアの特性に合わせた光の変化をデザインし、移動しながら楽しめる光環境を目指します。
◯安心・快適に過ごせるような光環境をつくります。
◯光を抑えて夜景を眺める場所もつくり、周辺の夜の景観を楽しめるようにします。
◯まちへの動線との交点や曲がり角などに光のアクセントとなる演出照明を配置し、次の動線への動きを誘います。

5 つのエリアの特性に合わせた光



みなとみらい地区の海へ向かう軸線に採用されている照明を活かすほか、足元を優しく照らすとともに、周辺の夜間景観を楽しめる視点場として、落ち着いた光環境を目指します。



歴史的資源であるハンマーヘッドクレーンを象徴的に演出するため、新港パーク等を含む周辺は落ち着きのある夜間景観の形成を推進するとともに、臨港パークからのつながりが感じられる照明とします。



地区のシンボルである赤レンガ倉庫の雰囲気をエリア全体で感じられるように、温かみのある光で演出します。

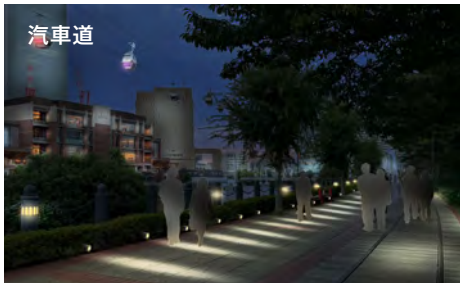


開港の地である象の鼻パークはシンボル感が感じられる照明計画とします。また、臨港線プロムナードは、水際線の中でも高いところから海を望める場所にあるため、周辺の夜間景観を楽しめるよう落ち着いた空間にしつつ、歩行者も楽しめるような光環境をつくります。



夜間も公園利用者が安心できる落ち着いた光環境をつくるとともに、特別な時間には海からの見え方も大切にし、ナイトタイムを楽しめるような照明とします。

周辺の夜景を楽しみやすい環境



汽車道は水面に浮かぶ特徴的な歩行者空間となっています。複数ある内水面への映り込みを意識した光環境を目指します。

光のアクセント



水際線のつながりに気づくきっかけとして光のアクセントを配置し、夜景と非日常感を楽しみながら次のエリアへの期待感を高め、自然な回遊を促します。

3 特別な光

○水際線全体の照明が一斉にカラーライティングすることにより、記憶に残る特別な光の演出を目指します。
○光の演出は、「日常の『特別な時間』」と「1年の中でも『特別な日』」という二つの視点で行います。

日常 → **日常の「特別な時間」（一斉カラーライティング）**



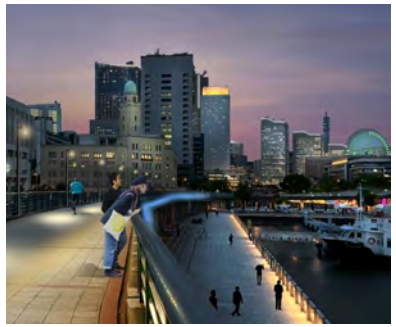






時間帯に応じて一斉にカラーライティングをすることで、時の移ろいを感じ、楽しめる仕掛けづくりを行います。







魅力スポットの紹介

首都圏で初めて「日本新三大夜景都市」に選出

2024 年、横浜市は「日本新三大夜景都市」に首都圏で初めて認定され、国際的な観光都市としての存在感を更に高めています。
この背景には、夜景そのものの美しさに加えて、国内最大級のイルミネーションイベント「ヨルノヨ」の存在があります。中でも注目を集めているのが、メインコンテンツの「ハイライト・オブ・ヨコハマ」です。都心臨海部を舞台に、官民が連携して創り上げる光と音楽が連動するスペクタクルショーは、横浜ならではの魅力を体感できる特別な演出として、多くの来街者から高い評価を得ています。
2024 年には、横浜 DeNA ベイスターズの優勝を祝う「ブルーライトアップ」を実施し、街全体が祝賀ムードに包まれ、野球ファンのみならず多くの来街者に特別な体験を提供しました。
また、花火や IP コンテンツとの連携等による多様な演出を展開することで、横浜に新たなにぎわいを生み出し、観光消費の拡大にもつなげていきます。
こうした取組と水際線のまちづくりを連動させ、光の街としての存在感を高めていきます。

1年の中でも『特別な日』（一斉カラーライティング）



横浜 DeNA ベイスターズ日本一優勝パレード 2024 連動企画



横浜ナイトフラワーズとの連携



YOKOHAMA GO GREEN

水際線
ルートサイン

水際線の路面上に一定間隔で案内サインを設置することで、水際線の連続性やリズムを生み出し、楽しみながら移動できるようにします。
ルートサインでは、①ナビゲーション、②ビューポイント、③インフォメーションの3種類のサインを組み合わせて案内していきます。

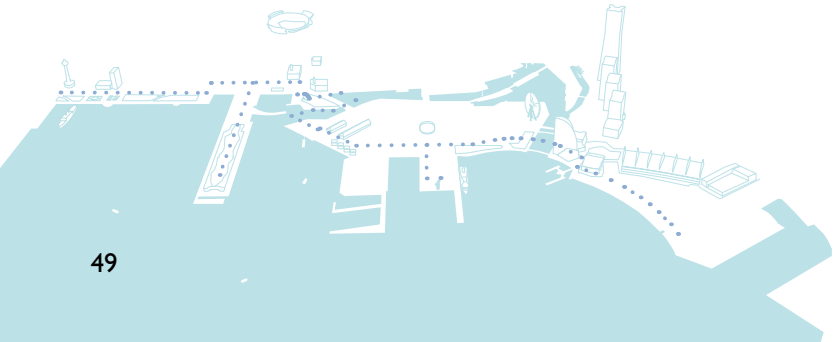
ナビゲーション

現在位置や近隣施設などを伝えるサイン



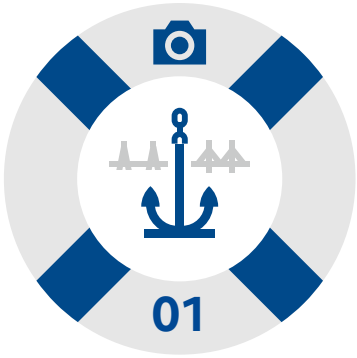
※イメージ





2 ビューポイント

写真スポットや視点場を伝えるサイン



※イメージ

3 インフォメーション

エリアの魅力やトリビアなどを伝えるサイン



※イメージ



整備の方向性

水際線とまちのつながりの強化

「水際線からまち」へ、「まちから水際線」へと更なる人の流れを生み出していくために、
「主要な鉄道駅」と「水際線」を結ぶ環境づくりなどを行います。



※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。

横浜駅 ⟷ 臨港パーク

①横浜駅東口駅前広場

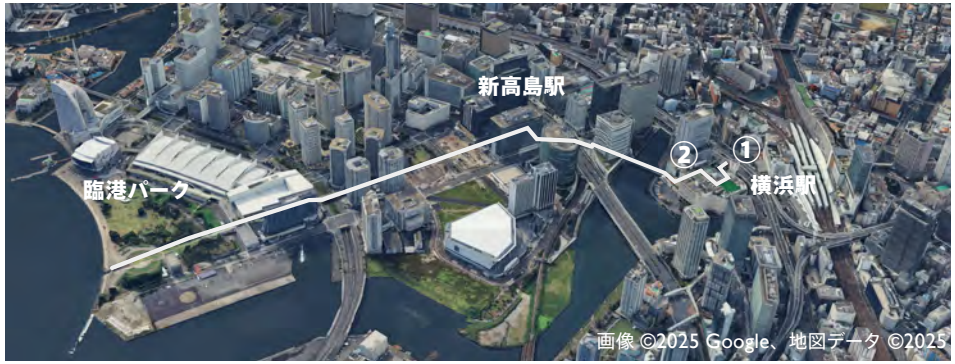


水際線の玄関口としての魅力的な空間の創出

②はまテラス（横浜駅東口）



水際線へとつながる日常的なにぎわい空間の創出

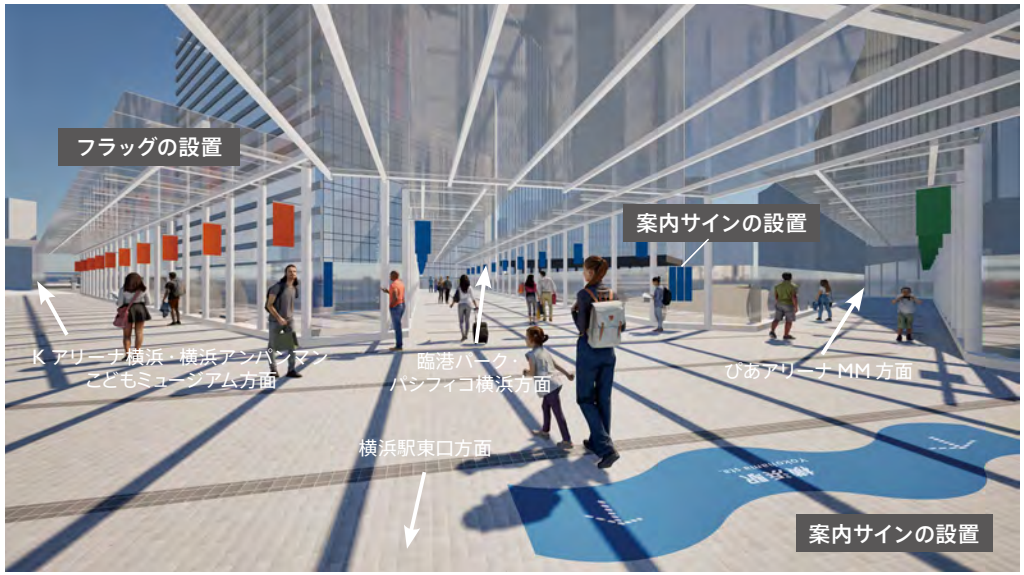


横浜駅 ⟷ 臨港パーク

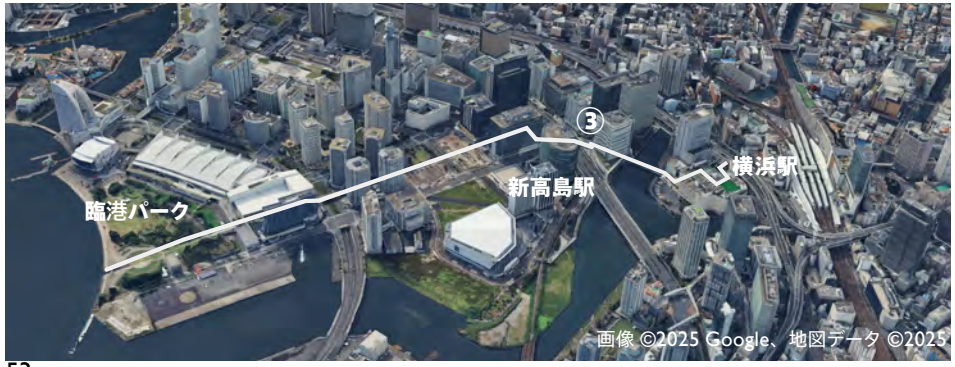
③みなとみらい歩道橋（新高島駅周辺）



水際線へと誘う連続した空間の創出

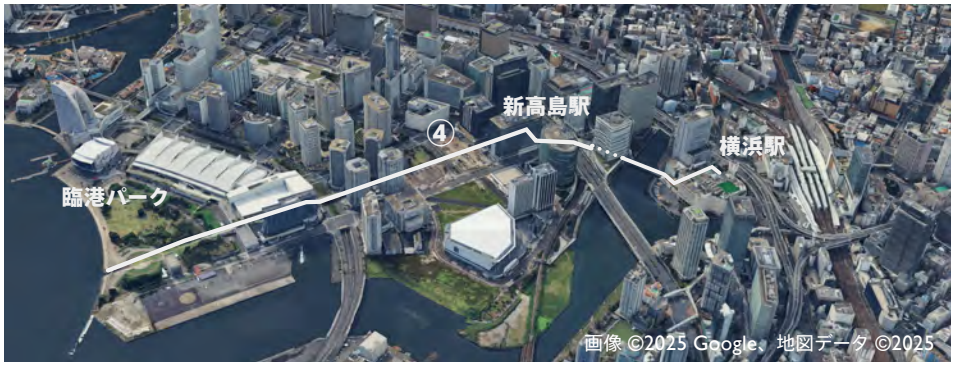


水際線へと誘う環境づくり



水際線へと誘う軸線 ―キング軸―

新高島駅周辺から臨港パークへとつながる「キング軸」(一部区間整備中) では、多くの来街者を水際線へと誘うため、グリーン空間やファニチャーなど滞在空間を整備するとともに、案内サインや連続性のある照明やフラッグなどにより、臨港パークへのつながりを演出していきます。



④キング軸 (横浜シンフォステージ前)





みなとみらい駅 ⟷ 臨港パーク

①パシフィコ横浜（プラザ広場）



水際線へと誘う環境づくり

②ぷかりさん橋周辺



海の眺望や花と緑を楽しめるにぎわい空間へとリニューアル



にぎわいと緑の軸線

水際線と関内駅周辺のまちづくりにより生まれるにぎわいを軸線でつなぐことで、関内・関外地区の活性化を図っていきます。
象の鼻パークから日本大通り、みなと大通り、横浜公園、大通り公園を経て蒔田公園までの区間を「にぎわいと緑の軸線」として位置付けます。
イルミネーションやグリーン空間、案内サイン・フラッグなどの人々を誘う仕掛けづくりや集客イベントなどにより、水際線からまちへ、まちから水際線へと人の流れを生み出していきます。



1 日本大通り・みなと大通り

歩きやすい歩行者空間や、緑と花で彩られた居心地の良い空間を創出するとともに、道路等の公共空間を積極的に活用したオープンカフェや集客イベント等を実施することで、にぎわいと緑あふれる軸線として機能強化していきます。


日本大通り


みなと大通り

2 関内駅周辺の開発

関内駅周辺では、オフィスや観光・エンタメ施設などの整備（※）が進められており、多くの人や企業が集まる拠点が生まれます。こうした駅前の拠点整備に合わせて、ウォーカブルな歩行者空間や回遊を促す歩行者デッキの整備を行うなど、まちなかと水際線をつなぐ取組を促進していきます。

※「BASEGATE横浜関内」は、2026年3月開業予定
「関内駅前再開発」は、2031年度供用開始予定



提供：関内駅前港町地区市街地再開発組合
関内駅前北口地区市街地再開発組合
※今後計画変更の可能性があります。

3 大通り公園（リニューアル）

にぎわいと交流を生み出す飲食機能や、花や緑を楽しめる滞在空間、子どもの遊び場などを整備し、多彩なイベントが開催される公園として全面的にリニューアルしていきます。
関外エリアの拠点を新たに生み出すことで、関内と関外をつなぐにぎわいの結節点としての役割を強化していきます。


※今後の設計等により変更となる場合があります。

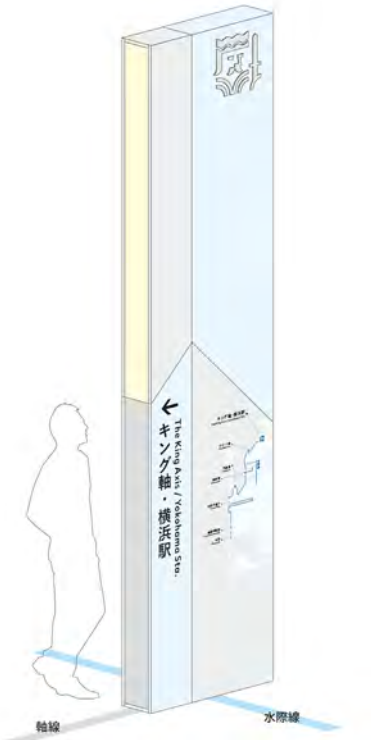
結節点サイン・矢羽根サイン



結節点サイン

水際線と、まちをつなぐ軸線が交差する地点にシンボルとなるサインを設置することで、水際線からまちなかへの回遊を促していきます。
盤面にはマップを掲載し、水際線上の現在地やまちなかの情報を伝えます。
また、歴史やトリビアなど、エリアの魅力も掲載します。

結節点サイン設置箇所
1. 臨港パーク（キング軸）
2. 臨港パーク（クイーン軸）
3. ハンマーヘッド
4. 赤レンガパーク
5. 象の鼻パーク
6. 山下公園（中華街側）
7. 山下公園（元町側）



※イメージ

2 矢羽根サイン

道路等に設置されている公共サインに新たに水際線の案内を追加することで、まちなかと水際線の回遊を促していきます。



※イメージ

水際線と主要な鉄道駅やまちをつなぐ軸線
1. 臨港パーク～横浜駅（キング軸）
2. 臨港パーク～桜木町駅（クイーン軸）
3. ハンマーヘッド～関内駅
4. 赤レンガパーク～桜木町駅
5. 象の鼻パーク～関内駅
6. 山下公園～中華街～石川町駅
7. 山下公園～元町～石川町駅



OPEN YOKOHAMA 横浜市

水際線まちづくりコンセプトプラン（原案）
令和８（2026）年３月
横浜市都市整備局臨海部活性化推進課
〒231-0005　横浜市中区本町６丁目50番地の10
TEL：045-671-4863　FAX：045-550-3905